

市立

1996年（平成8年）4月1日発行

# 市川自然博物館

## 2・3月号

(通巻第42号)

## だより

都市と生物 VI 『ヒキガエル』



△産卵池を目指して歩きだしたヒキガエル。その行く手には、冷たいコンクリートの塀や、行き交う自動車の恐怖が待ち受けている。

# 都市と 生物

# VI 『ヒキガエル』

うらかな春の日にひょっこり姿を現したヒキガエルが、いつもの池で卵を産み、いつもの植木鉢に居場所を定める——庭に住み着いたヒキガエルとのつかず離れずのつきあいは、結構、長く続くものです。

ヒキガエルは、古くからの住宅地などでは必ず見られる、ごく身近なカエルです。田んぼの減少とともに多くのカエルが姿を消していくなか、都市とヒキガエルの関係を考えます。

## 都市と生物

今年度の博物館だよりでは、「都市と生物」と題して、野生生物と都市環境との関係を特集してきました。現在の市川市の環境を広く「都市」と位置づけ、いくつかの生物について、市内での生息状況などから都市との関係を探りました。

取り上げた中で、もっとも都市に適応していたのはカラス（ハシブトガラス、ハシボソガラス）でした。生ゴミを食べ、ハンガーや針金で巣を作るなど、その暮らしぶりは都市環境の特徴をうまく利用していました。最近ふえているホンダタヌキにも、カラスと似たような点がありました。

一方、スズメバチ（キイロスズメバチ、コガタスズメバチ）は、都市の中の自然的な部分（公園や住宅地）に目をつけ、餌や営巣場所の選択の幅を広くすることで都市に適応していました。セイタカアワダチソウは、都市の不安定さゆえに生じる空き地に繁栄の場を求めていました。また、アユは、決して都市環境を好んでいるわけではなく、江戸川の環境が、たまたまアユにとって都合よく残っていただけでした。

都市と生物の関係は、一様なものではありません。ヒキガエルにしても、市内で普通に見られるからといって、単純に都市が好きとは言いきれない面があります。

## シリーズで取り上げた生物の都市好き度

都市が好き	カラス（ハシブトガラス、ハシボソガラス）
都市を好きになりつつある	ホンダタヌキ
都市でもやっていけそう	スズメバチ（キイロスズメバチ、コガタスズメバチ）
都市になりかけの場所が好き	セイタカアワダチソウ
たまたま都市に残っただけ	アユ

ヒキガエルは、都会好き？

カエルは、水辺を代表する生物のひとつです。どの種類のカエルでも、卵を産み、オタマジャクシが育つためには水が必要です。でも、成体のカエルの場合、生活場所はさまざまです。水のそばで暮らす種類もいれば、水から離れて暮らす種類もあります。

市内に生息する6種類のカエルでも、たとえばウシガエル（食用ガエル）は、池や水路などおもに水中で暮らします。ニホンアカガエルとトウキョウダルマガエルは水中ではないものの、田んぼで多く見られます。これらは、水から離れずに暮らす種類です。指の間の発達した水かきが、その暮らしぶりを示しています。

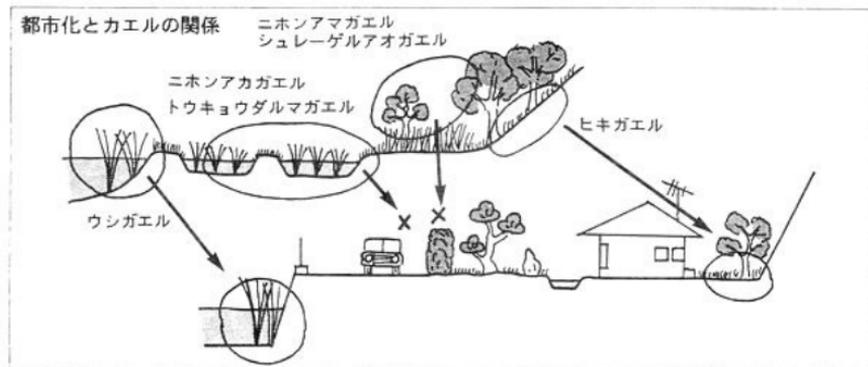
ニホンアマガエルとシュレーゲルアオガエルは、指先が吸盤になっています。この2種類は草や木に登るのが得意で、生活も水辺の草や低木の上で営みます。田んぼのそばの柿の木に登ったら、柿と一緒にニホンアマガエルが取れたという話もあり、実際、同じ田んぼでもニホンアカガエルとトウキョウダルマガエルが地上付近で見つかるのに対し、この2種類は葉上で見つかります。水辺の林では樹上にも多く、木の上

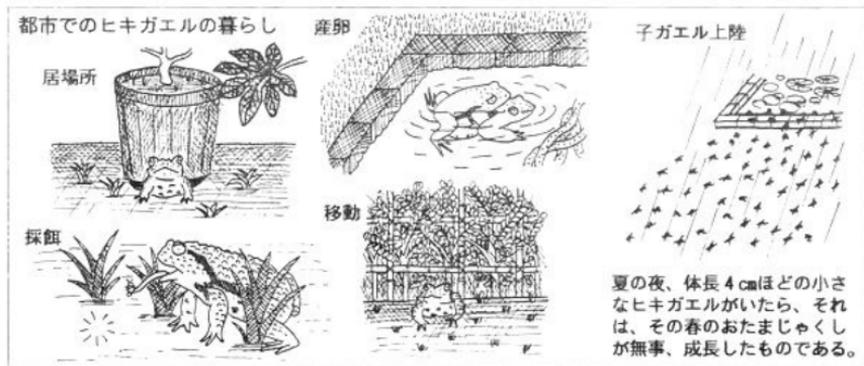
から鳴き声が降り注ぐこともあります。

ヒキガエル（市内のものは亜種・アズマヒキガエル）は、本来は雑木林の地面で暮らしています。吸盤や水かきがなく、ただ歩くだけが取り柄ですが、この6種類の中ではもっとも乾燥に強いカエルです。湿ってさえいれば、特に水がなくても困りません。そしてこのことが、都市化に対して有利に働きました。

市川のような低地の地域の場合、都市化とは環境の乾燥化を意味します。都市化は田んぼを埋め、アシ原を埋めます。田んぼがなければ、ニホンアカガエルとトウキョウダルマガエルの生存は困難です。ニホンアマガエルやシュレーゲルアオガエルにしても、群生するセイタカアワダチソウや駐車場の隅の草むらではやっていけません。

そんな中、乾燥に強いヒキガエルは、雑木林が宅地に替わっても、そのまま、庭の隅のジメジメした場所に生活の場を見つけて生き残ることができます。ヒキガエルは、元々ひと所にとどまる性質が強いカエルです。適度に湿った庭があれば、そこに住み着き、ミミズやダンゴムシを食べて生き抜くことができるのです。





### ヒキガエルが暮らせるまち

都市化の中でもどうかこうにか生活の場を見つけたヒキガエルですが、彼らの前途は決して明るいものではありません。それは、最近のまちづくりが結果的にヒキガエルを拒絶する方向で進んでいるからです。

ヒキガエルが都市で存続し続けるには、生活の場としての庭や公園以外に、もうひとつ重要なポイントがあります。産卵の場です。ヒキガエルは、早春、決まった池に雌雄が集まって一気に卵を産む「蛙合戦」で知られ、産卵そのものは庭のちょっとした池でもできるのですが、最近では、池に集まるための経路が絶たれてしまうことがよくあります。生け垣や板塀が、隙間ひとつないコンクリート塀に替わってしまうのです。それは、歩くだけが取り柄のヒキガエルにとっては大問題です。行く手を阻まれたヒキガエルが、池のない庭で、仕方なく土の上に卵を産んだこともあります。その上、輪禍が追い打ちをかけます。

ヒキガエルは、野外では長くて10年くらいの命といわれています。繁殖できなくなって、すぐにヒキガエルがいなくなるわけではありません。でも、気がついた時には

全然見なくなったなんてこともあり得ます。

千葉県のカエルに詳しい長谷川雅美さん（千葉県立中央博物館）は、「都市に適應できるカエルはいないと思います。その中でヒキガエルとは、結果的にうまく共存してきました。塀の構造ひとつで、カエルが1種類、身近から姿を消すかどうかが大きく左右されます」とおっしゃっています。

野生生物のことにまで配慮したまちづくりを、これからはできるでしょうか？



「いちかわの自然調査 1991報告書」より



# 街かど自然探訪

おじやします!

すまひろ

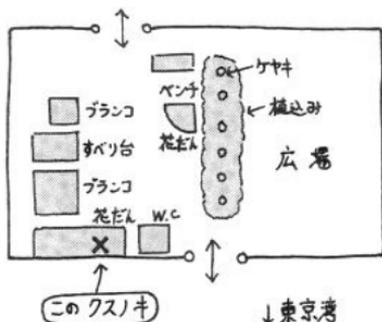
末広・ハンガー入りのカラスの巣

ハンガー入りの美しい?カラスの巣を見つけました。場所は、末広1丁目の東沖公園。樹高8mほどのクスノキの先端近くに掛かっています。

カラスの巣は、樹木の多い市の中北部ばかりでなく、行徳地区でも結構見ることができます。相之川の了善寺付近では高い木の上にある巣が見られ、時に送電鉄塔で見つかることもあります。東沖公園の巣は低い位置にあり、材料のハンガーをはっきりと見ることができます。

東沖公園

↑東西線



## 行徳野鳥観察舎

オオイヌノフグリ

ひさびさの「暖冬でない冬」。急激な気温上昇でびっくりした日はあるにせよ、いつまでも寒い。花が遅い。芽吹きも遅い。「鳥が少ない」……これは単なるグチです。

それでも立春をすぎると、枯草の間からはとつするほど鮮やかな草花の色が目につくようになる。ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、セイヨウタンポポ、オオイヌノフグリ、ナズナ、ハコベ。帰化植物が多いのは少々残念だけれど、ひとつひとつ見つける楽しみは格別だ。ボール紙と割り箸で名札を作って道ばたの花のところに立てた。ありふれた「雑草」ばか

## だより



文と絵

・蓮尾純子

りだが、かがみこんでていねいに見てくださる方もある。陽光を満たした小さな杯のようなオオイヌノフグリ。青空を映している。

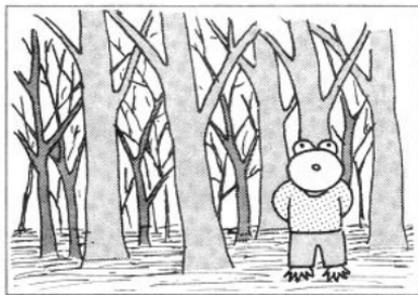
(行徳野鳥観察舎 0473-97-9046)

ちょっと  
いい所

ヤマハンノキを見に  
北国分の緑地へ

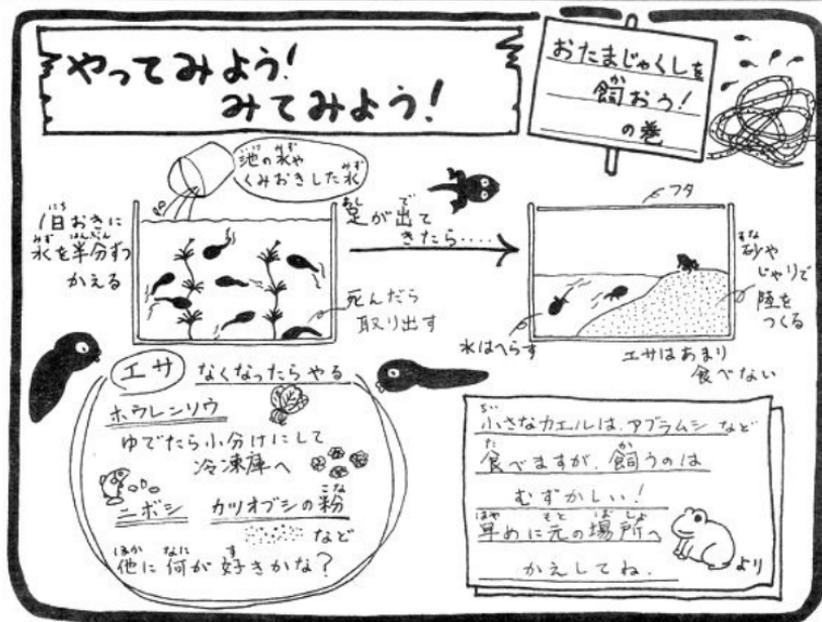
『いちかわ植物記』（市川ジャーナル社）にヤマハンノキのことが紹介されています。山地帯や丘陵帯には普通に分布するが千葉県のような平地には少ないこと、北総台地でも何箇所か記録があるものの林の体裁をなすところはほとんどないらしいことが書かれています。

いま、市内でヤマハンノキが見られるのは、小塚山市民の森、北国分第4緑地、柏井雑木林、大町自然観察園などです。いずれも数本生えている程度ですが、北国分地区の2か所は観察しやすいところです。円い葉っぱを手がかりに探してみてもいいでしょう。



【小塚山市民の森、北国分第4緑地への交通】

最寄り駅は、北総線・北国分駅です。駅の周辺にいくつかの緑地や公園があるので、歩いて緑地めぐりをしてみるとおもしろいと思います。



わたしの  
**観察** ノート  
 No.24

◆大町自然観察園より

- ・ニホンアカガエルの最初の卵塊（1つ）が見つかりました（1/23）。

金子謙一（自然博物館）

※翌日にも1卵塊見つかりましたが、その後は寒くなったせいか音なしで多数が見られるようになったのは、2月に入ってからでした。

- ・越冬しているホソミオツネトンボの成虫3頭が見られました（1/23）。

阿部則雄さん（船橋市在住）

※トンボは、たいてい卵か幼虫で冬を越します。ホソミオツネトンボは成虫越冬する珍しいトンボですが、枯れ枝そっくりに化けているので、向こうが動かなければ、ほんの50cmの距離であっても発見は困難です。

- ・フクロウが鳴きました（1/31）。

金子謙一

◆こざと公園より

- ・アオサギ、コサギ、ハシビロガモ、ホシハジロ、カイツブリ、カワウ、マガモが見られました（12/15）。

◆南大野より

- ・チョウゲンボウがカラスに追われていました（12/13）。

以上 高畑道由さん（南大野在住）

※チョウゲンボウは、毎冬、南大野あたりに姿を現します。

◆小塚山市民の森より

- ・ホトケノザが、早くも花を咲かせました（1/22）。

西畑文子さん（北国分在住）

- ・ビンズイ（12/10）、ヤマシギ（1/1）、ルリビタキ（1/28）を見ました。

◆堀之内貝塚公園より

- ・笛のような声で鳴くウソの雄の美しい姿を見ました（12/10）。

◆じゅん菜池公園より

- ・アオサギ2羽が飛来しましたが、カラスに追われ行ってしまいました（12/2）。
- ・斜面林でアオゲラを見ました（12/10）。

◆江戸川より

- ・カンムリカイツブリを見ました（12/2）。その後も1～2羽が見られました。
  - ・河川敷の畑にタゲリが降り立ちました。しばらくして行ってしまいました（1/1）。
- 以上 根本貴久さん（菅野在住）

◆原木より

- ・原木にある池で、ヨシガモ（12/2）、ミコアイサ（1/5）を見ました。この池はホシハジロが多く、他にカルガモ、オカヨシガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロがいました。

田中利彦さん（船橋市在住）

- ◎クリスマス寒波をはじめ、幾度も寒波が来て雪も積もった、寒い冬でした。



# 5・6月の行事案内



## 自然観察会

- ・一般向けコース…身近な自然をわかりやすく解説します。申込み先着20名。
- ・親子向けコース…親子で楽しく身近な自然に親しみます。申込み先着10組。  
(小さなお子さん連れでの参加もどうぞ)

※『浅瀬の生き物』は申込み先着30名です。

### ○内容

- ・新緑の谷津…樹々の花や水の中のオタマジャクシ、湧水など観察します。
- ・浅瀬の生き物…ヤドカリやイソギンチャク、マハゼの子などの観察と採集です。

テーマ	月日	コース名	時間	場所	受付開始日
新緑の谷津	5月11日(土)	親子コース	午前 9時30分	自然観察園	4月15日～
	5月12日(日)	一般コース			
浅瀬の生き物	6月2日(日)	親子コース 一般コース 合同	午前 11時30分	江戸川 放水路	5月1日～

### ●申込み方法

往復ハガキに参加したい行事名・コース名・参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号・返信のあて先を書いて、自然博物館までお申込みください。

## 博物館だより定期購読者 募集

『博物館だより』を定期的に読んでみませんか！送料分の切手をお送りいただければ、年6回発行予定の『博物館だより』を郵送いたします。

次の要領で、自然博物館にお申し込みください。次号よりお送りします。

☆申込み方法・・・住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、送料分の切手  
(必ず90円分切手1枚と80円切手5枚分)を同封の上、  
自然博物館まで封書でお申込みください。

※できるだけ5月末日までにお申込みください。

※2部以上の送付をご希望の方は、博物館までお問い合わせください。

市立市川自然博物館だより  
第7巻 6号 (通巻第42号)  
発行日/平成8年4月1日(偶数月発行)  
編集・発行/市立市川自然博物館  
〒272 千葉県市川市大町 284番地  
☎ 0473(39)0477